

1人1台端末を効果的に活用し、主体的に学ぶ姿を引き出す授業実践

米子市立車尾小学校の実践より

社会科：わたしたちの生活と食料生産
「くらしを支える食料生産」（第5学年）

全国の実践事例



文部科学省
「StuDX Style」

とっとりICT活用
ハンドブック
「10の授業形態」

ポイント1 導入において、活動内容を可視化する。



Jamboard の背景に白地図をはりつけたページを、班の数だけ用意します。児童は、自分の班のページ上で、スーパーマーケットのチラシにのっている食料品を産地ごとに整理していきます(①)。先生がやり方を実演して見せることで、どの子も見通しを持って取り組むことができます。

A1
教員による教材の提示

画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

ポイント2 学習課題にせまるために、複数の資料を使い、協働しながらお互いの情報を結び付ける。



「食料の産地にはどのような特色があるのか」について、班ごとに気付きをまとめていきます。

Classroom の掲示板を使い、先生が2つの情報(②③)を追加しました。①食料品を産地ごとに整理したもの ②日本の降水量と気温 ③日本の土地利用を班の中で分担し、各自の端末上で参照します。自分が担当した資料から分かることを伝え合う中で、お互いの情報を結び付け、産地の特色について推論していきます。

主体的に地図帳や資料集を開き、さらに情報を得ようとする姿も見られました。

C3
協働制作

グループでの分担、協働による作品の制作



ポイント3 他の班の学びの様子も見ながら、班の中で出た意見を整理し、まとめる。



班ごとに、意見を思考ツール(Yチャート)で整理していきます。**Jamboard** を使うことで、端末上で他の班の学びの様子を見ることもできます。

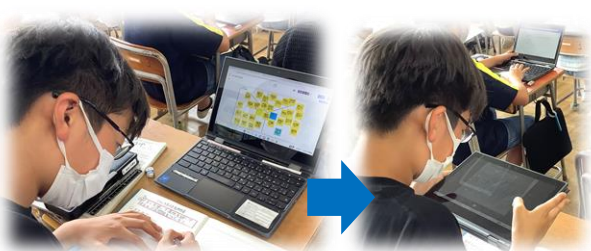
ICTを活用すると、全体での共有もスムーズにできます。友だちの発表を聞きながら、手元の端末で拡大して確認する姿も見られました。



C1
発表や話し合い

グループや学級全体での発表・話し合い

ポイント4 まとめや振り返りの記録を、児童と先生がデータで共有する。



まとめで書いたものを写真にとり、**Classroom** へ提出することで、児童も先生もデータでいつでも確認することができます。

振り返りは、授業中に **Forms** を使って行うことで、早く集約し、次の授業に活かすことができます。

B1
個に応じる学習

一人一人の習熟の程度等に応じた学習